

平成26年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】 ～ 公立高校日本一をめざして ～

- 大阪を代表する公立高等学校として、府民から信頼される学校。
- 日本や国際社会で活躍する高い「志」を持ったリーダーを育成する学校。
- 全てにおいて「チーム天王寺」として組織的に一丸となって取り組む学校。

【生徒に育みたい力】

- 高い教養と正義感に裏うちされた豊かな人間力
- 課題を乗り越え、最後まで頑張り抜く精神力
- 高い志を持ち、目標に向かって全力を尽くす集中力
- 世界で活躍できるグローバルリーダーとしての資質や能力

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 天高スタンダードを基に、3年間を見通した高い学力の定着に取り組む

- ア 授業アンケートにおいてアンケート項目の全体平均を平成28年度末には3.50以上をめざす（H26年度は4点満点で3.37）。
- イ 教科担当、部顧問の連携を密にし、個々の生徒の学習到達度を共有し、補習や講習と部活をスムーズに連動させて学力を向上させる。
- ウ 文武両道をさらに追及する。学校教育自己診断においても部活動との両立ができていない生徒の割合を向上させ、（平成26年度末66%）平成29年度末には70%以上をめざす。

(2) 学習指導の充実に取り組む

- ア 天高育成プログラムを基に、各教科ごとに3年間を見通した学力育成プログラムを作成する。
- イ 本校の生徒実態を踏まえた、学習到達目標の点検を行うとともにさらなる充実に取り組む。
- ウ 自習教材の更なる充実を推進し、天高オリジナル教材の科目を増やす。
（H26現在は国・世・数・化・英・保体の自習教材ができています）
- エ 平成28年度までには電子黒板またはプロジェクターを全教室に導入し、一層の授業改善を行う。
- オ 授業評価と研究授業、公開授業の充実（教科の枠を超えた授業研究の実施）し、互いに見学する回数を1人平均5回以上にする（平成25年度は4.5回）
- カ 英語に対する学習意欲を増加させ、TOEICとTOEFLの合計の受検者数を増やす（平成26年度はTOEFL CHALLENGE 76人受検⇒平成28年度には70名以上）
（H26年度からTOEFLを活用した授業の導入を行うとともに、土曜日を活用してTOEFL受験を踏まえた講習等を行う）

(3) 自学自習の徹底 → 桃陰セミナーの活用（土曜日は学校で自学自習の習慣づけ）

- ア 「文武両道」の推進【勉強と部活動の両立（部加入率95%以上を維持する）】
→【部学習日】の更なる充実（先輩・後輩や同級生が相互教え、切磋琢磨の気風の醸成）
- イ SSHの成果「課題研究」、「創知」（学校設定教科）や文系生徒の課題研究について探求的学習活動をさらに充実させる
- ウ 高い志の涵養をはかる。難関大学合格者を増やす。平成28年の大学入試において、東大、京大、医学部医学科の合計80以上をめざす。

2 グローバル社会に貢献できる人材の育成

（夢・志の育成とともに、豊かな人間性の育成）

(1) グローバルリーダーの育成

- ア SSHやGLHSの取組を発展させ、海外セミナーを活性化させる。（海外の優秀な大学の授業を体験して世界を知らしめ、大きな刺激を与える）
平成25年度に実施したイギリスやアメリカ等での海外研修をさらに発展させ、よりいっそう世界を意識させるとともに英語力の向上をはかる。
- イ 育成プログラムに基づきリーダーに必要な素養として豊かな感性と教養を身につけさせる。
- ウ 文武両道のもと、多彩な学校行事とおして心身ともに丈夫で頑強な人材の育成をはかる。
仲間意識（自他を尊重する相互の信頼感・連帯感）の醸成→行事を通して、天高生として自覚と責任ある行動を身につける。
「考えぬく力」、「前に踏み出す力」、「チームで働く力」の涵養を行う。
- エ 卓越した科学技術人材の育成をめざし、SSHの重点枠を活用して他府県の優秀な生徒と切磋琢磨させる。（近畿サイエンスデイ開催の定着）

(2) 生徒理解の促進と安心な学校づくりのための体制の確立をめざす。

- ア 教育相談委員会の充実ははかり、担任、学年団、カウンセラーと連携し、様々な問題で登校できなくなる生徒を支援し、不登校状態の生徒を0にする。
- イ 学年連絡会を活性化させ学年団で生徒を支援する体制を構築する。・・・結果として留年する生徒を0にし、入学した生徒が全員卒業できるようにする。

(3) GLHSの事務局校としてその責務を果たすべく京都大学、大阪大学との連携協定に基づき、両大学との連携を強化する。

- ア 京都大学と連携協定に基づくキャンパスガイド等とおして高い志の育成をはかる。
- イ 大阪大学との連携協定に基づく10校発表会等とおして高い志の育成をはかる。

3 中堅、若手教員の資質の向上

- ア 新規採用教員に対して実施している「桃陰塾」を継続発展させて教科指導力、生徒指導力の育成を図る。
- イ 若手教員に対しても教科指導力、生徒指導力の育成と中堅教員に対しては学校運営の視点を育成していく
- ウ 予備校等のベテラン教員を招聘し、授業展開に主眼を置いた研修会を開催する。

4 校務の効率化

- ア 平成27年度までにはICTを活用した校務の情報化（イントラネットの有効活用等）により、会議等で使う紙をできるだけ少なくする取組を推進する。
- イ 紙の使用量を20%の削減をめざす。（平成24年度のざら紙購入費用は約115万円⇒約90万円への削減をめざす）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26年10月実施分]	学校協議会からの意見
<p>保護者による回答 有効回答数 794 (1年 298・2年 258・3年 236 回収率 74%)</p> <p>「非常にそう思う」と「そう思う」という肯定的な意見が 90%を超える項目が 23 項目中 11 項目あった。中でも「この学校の部活動は活発である」と評価した保護者は 96%であった。「この学校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる。」の項目には 95%、「学校の雰囲気がよく、子供たちが生き生きしている。」の項目には 94%、「学校は、教育目標をわかりやすく伝えている。」の項目には 93%の保護者が肯定的な回答しており、学校教育の方針は支持されていると思われる。</p> <p>生徒による回答 (1014/1079 回収率 94%)</p> <p>「部活動に参加している。」100%、「学校に行くのが楽しい。」91%、「学校での友人関係はうまくいっている。」96%、「教材や教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い。」91%、「授業の理解度に応じて、生徒が参加できる補習や講習が行われる。」91%、「専門家の講演会や大学の見学など、自分の進路に関わる行事が豊富である。」94%の回答に見られるように、多くの生徒が本校の教育活動に満足していると思われる。</p> <p>教員による回答 (48/67 回収率 72%)</p> <p>「この学校の教育活動には、生徒や保護者のニーズにあった他の学校にない特色がある」96%、「各教科において、教材の精選・工夫を行い、学問への興味・関心を醸成している。」98%、「学習意欲の高い生徒に対する学習指導を、積極的に行っている。」94%、「入学した生徒の能力を十分伸ばして卒業させている。」87%、「到達度の低い生徒に対する学習指導を、積極的に行っている。」89%「この学校の教育活動は、他者への共感・社会貢献の意識を養い、リーダーシップの養成に役立っている。」88%など、教育に対する取組には自信をもっていることがうかがえる。</p> <p>一方、「学校運営に教職員の意見が反映されている。」は 9%と非常に低い。これは職員会議の在り方を見直し、多数決を禁止したことと、土曜授業の導入を推進した事への反発の表れであると思われる。来年度は月に 1 回程度の土曜授業実施を計画している。</p>	<p>第 1 回 (7/19)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○卒業生の行事等への協力について、桃陰セミナー (30 名) 学部学科説明会 (30 名) 水泳訓練 (46 名) 野外生活体験学習 (17 名) や東大京大阪大見学会の受け入れ、天高アカデメイアの講師など、多くの O B、O G に今後もうまく協力してもらえばよい。 ○新たに行事などを増やすと先生方を疲労させることにならないか? 予算の使い方については、先生方の負担が減り、教材研究の時間が増えるように配慮願いたい。予算が増えれば、仕事を外部に頼ることもできるが、謝金などに関しても同窓会などに協力を求め、知恵を出し合っていく必要がある。 ○ある学校は 1 2 月位になると学校ではなく予備校の自習室へ行ってしまいうらいが、天王寺でそのようなことがないのは、教員が本当に最後まで頑張ってもらっているからだと感じる。天王寺の教育がしっかりしていれば、教育制度が多少変わっても揺らぐことはないので引き続き期待したい。 <p>第 2 回 (11/8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海外派遣など、素晴らしい取り組みを行っているが、それをどこまで広報できているのか。天王寺高校が取り組んでいる内容は全国的に宣伝してもいいような内容だと思う。一般の人にわかるように、常時取り組みが分かるところがないものか。同窓会に協力をお願いできないか。受験者や保護者だけでなく、一般の人に広められないか。そのためには、ぜひ教育関係の学会で取り組みを発表してほしい。 ○授業アンケートの結果で、数値が低いところはどのような取り組みをしているのか。指導力の向上として教員同士での授業参観をするなど改善を行っているが、先生方には天王寺高校で勤めていれば、教科指導がどの学校に赴任しても通用するという力をつけてほしい。 ○中学校では、生徒が天高のことをどれだけ知っているのか、どれだけ知らせているかということを感じている。普通科の校区もなくなり、学校のことをよく理解せずに受験している生徒もいる。授業体験をすることが進路の目標設定につながると思う。「創知」のとりくみを中学校と連携してできないか。 <p>第 3 回 (1/31)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己診断を見ると学校行事等について先生方の意見は厳しいようだが、保護者としては、年々天王寺高校は良くなっているように思っている。より現代の社会に合ってきているのではないか。また、長期欠席する生徒がいる。大阪府の予算が厳しいようであるが必要なことは主張して、しっかりフォローしてほしい。学校側も保護者も巻き込んで、生徒の指導に当たっていただけると良いと思われる。手厚く対応しているという事を、上手く PR していけたら良いのではないか。悩んでいるのは、あなただけではないということをお伝えしたら良い。 ○生徒の満足度は右肩上がりであるが、保護者の方の満足度は若干右肩下がりになっているように思う。教員の満足度は大きく下がっている。なにが起きているのかと心配している。また、先生のアンケートの回収率が悪いのはなぜか? ととても危機感を感じる。校長が代わったら、20 年前の状態にもどってしまうのではないかと不安である。勉強だけをする学校にはしてほしくない。 ○天王寺が大変だというのはよく分かるが、天王寺は入ってくる生徒の質も高いが、先生の質が高いところであるはずだ。教員をしっかり鍛えてほしい。常勤の講師や非常勤の講師についてもよろしく願います。 ○数字を見ると、先生がとても頑張っていると感じる。忙しい中 5 回の授業見学を行うという目標は、素晴らしいと思う。ただ、卒業して、何年か経つ O B が学校にきてふと思うことは、現在の天王寺高校は、個々の開発に力を入れてはいるが、集団での繋がりは失われているのではないか。社会にでたとき、大学での繋がりがより高校での繋がりが、つまり天高での繋がりが強いと感じるが、それが失われてきているのではないか。 ○特定の先生に仕事集中しているなら分掌を外すなど、分掌の見直しも考えてほしい。ここまで文武両道ができているのは素晴らしいと思う。 ○受験システムが来年度から代わる。心配だ。従来の学力とは違う生徒が入ってくる可能性がある。行事についていけない生徒などがでてきて、勉強だけができた方が良いようになってもらっては困る。どんな生徒がきても大丈夫とまでは言わないが、そこらへんも考えてもらいたい。

府立天王寺高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)天高スタンダードの実施と検証を行い各教科ごとの到達度を高める。</p> <p>(2)授業改善の取組を行い授業満足度を向上させる</p> <p>(3)自学自主の態度を養成し、意欲的に学習する姿勢の涵養。</p>	<p>(1) ア・教科運営委員会で天高スタンダードを点検、整備していく イ・天高オリジナル教材作成 ウ・天高3年間を見通した学力育成プログラムの内容の充実を図る エ・学習到達低位の生徒への組織的な対応 オ・土曜日の活用を研究し実施する。</p> <p>(2) ア・「一方的な授業形態を改め、双方向の授業」を今まで以上に推奨し推進する イ・授業公開週間（前期と後期の実施）→見学回数5回以上（全職員） ウ・授業力向上講座の実施（外部講師による） エ・大阪府内外の先進的取組の視察や授業見学などによる教科指導法の研究実施 オ・英語教育の見直しを行う。</p> <p>(3) ア・桃陰セミナー、部学習日を充実させる（土曜日を活用した自習活動）。 土曜日の半日「部学習日」として部単位で自学自習を継続し推奨する。 （同時に先輩・後輩や同級生が相互教え合うことによる切磋琢磨の気風の醸成をめざす） イ・全学年、夏期休業中に勉強合宿を実施し、さらなる学習意欲を増加させるとともに自己の将来を展望させる。 ウ・高い志の涵養。</p>	<p>(1) ア・天高スタンダードの改訂 イ・天高オリジナル教材の改良または更新 ウ・3年間を見通した学力育成プログラムの改良 エ・補習、講習の充実 氏名補講として10回以上実施する。 オ・3年生対象の進学講習等を10回以上実施する。</p> <p>(2) ア・授業満足度の平均が3.35を上回る。(H25年度、平均3.35) イ・相互の授業見学5回以上 ウ・外部講師による授業力向上講座のべ7回以上 エ・他府県等の視察3か所以上 オ・TOEFLを活用した授業を導入する。</p> <p>(3) ア・桃陰セミナー参加者数の維持。1日平均376名以上(H25年度1日平均376名) ・部学習日の参加者数の総計2000名以上を維持 イ・全学年の勉強合宿の開催 ウ・難関大学及び医学部等への合格者数の合計が前年度を上回る。(東大、京大、医学部医学科の合計70以上H25は67) 京大の受験者が今年を上回る(H25は85名)※現役</p>	<p>(1) ア・教科運営委員会において天高スタンダードを点検し一部改訂した。(○) イ・オリジナル教材については国語科の教材(天高百冊)を改訂するとともに既存の教材を改良更新した。(○) ウ・学力育成プログラムについては英語科においてTOEFLを文理学科1年生の授業に導入するなど一部の見直しを図った。(○) エ・英語・数学・国語の指名補講は定期考査ごとに成績下位者に対して行い平均29回の補講を実施した。(◎) オ・3年生対象の進学講習等を平均20.2回実施した。また、土曜日を活用してTOEFL講座を述べ16回実施した。(◎)</p> <p>(2) ア・授業満足度の平均が3.37であった。目標を達成し高い水準を維持した(84.2%) (○) ※満足度の満点は4.00 イ・相互の授業見学の平均3.2回(△) ウ・外部講師による授業力向上講座のべ5回実施(△)(駿台 Super Teacher による難関大学への指導法) エ・他府県等の視察 大分県立上野丘高校 (○) 今後福島県のプリティッシュヒルズ、東京都立西高校視察予定。 オ・1年生の文理学科に後期からTOEFLを活用した授業を導入した。(○)</p> <p>(3) ア・桃陰セミナー参加者数1日平均383名となり、目標は達成した。(○) ・部学習日参加者 未集計 ※前期1069名であった。(○) イ・全学年の勉強合宿を開催した。(○) 1年 南港 Hアカデミア(208名) 2年 南港 Hアカデミア(176名) 3年 京都 然林坊 (189名) ウ 東大2 京大53 医学部医学科16 合計71名 目標達成(◎) 京大受験者は90名であった。目標を達成した。(◎)</p>
2 グローバル社会に貢献できる人材の育成	<p>(1)グローバルリーダーの育成をめざしそれにふさわしい素養を身につけさせる。</p>	<p>(1) ア・グローバル人材育成の取組を行う。文系の課題研究にグローバルな社会問題に関する研究を実施する。 イ・天高アカデミア(外部講師講演会)の実施 ウ・グローバルな視点を取り入れた内容の講演の実施 (外国人の研究者や留学生などによる英語による講演や発表)</p>	<p>(1) ア・グローバルな社会課題に関する論文を10本以上作成する。 イ・天高アカデミアを年10回以上実施(H25年度10回実施)する。 ・天高アカデミアの満足度の調査と80%以上の満足度を維持する。 ウ・天高アカデミア以外の外国人による英語による講演会を3回以上実施する。</p>	<p>(1) ア・グローバルな社会課題に関する論文を18本作成達成できた。(◎) イ・天高アカデミアを12回実施した。(○) ・天高アカデミアの満足度82% 達成した。(○) ウ・天高アカデミア以外の外国人による英語による講演会は2回実施した。(△) (EU シンポジウムにおいて英語での講演、サイエンスダイアログを活用した英語による講演会実施。他に、7月に AIU 米国高校生交流で英語で Discussion 8月に HARVRD 大学の学生によるプレゼンテーション聴講を実施した。)</p>

府立天王寺高等学校

	<p>(2)生徒理解の促進と安心な学校作りのための体制の促進</p> <p>(3)SSH や GLHS の充実、発展に取り組む</p>	<p>エ・ English Camp の実施と定着</p> <p>(2) ア・多彩な行事、部活動を通して、仲間意識、連帯感の醸成及び互いに他しけ合う気持ちを醸成するとともに、強い精神力と協調性を育む。(チーム天王寺の定着)</p> <p>イ・教育相談委員会を充実させる。(人権委員会、保健部、学年団が連携して生徒の状況把握と積極的な指導を実施)</p> <p>ウ・教育センターの適応指導教室を積極的に活用する。</p> <p>(3) ア・英語教育の充実をめざし、TOEFLを活用した授業を1年生から開始する。 土曜日等を活用したTOEFL講座を開講する。(希望者)</p> <p>イ・京都大学、大阪大学との連携協定に基づき両大学とあらたな連携を行う。</p> <p>ウ・海外の大学を活用した海外セミナーを発展させる。</p> <p>エ・近畿サイエンスデイ(大阪府以外の公立トップ高等学校との研究発表)を充実する。</p> <p>オ・海外の高校との交流を増やす。 (現状;韓国 慶南女子高校、台湾 台北第一女子高校の2校が来校 オーストラリアのホーランドパーク校と姉妹提携実施) 課題研究発表の機会として双方の生徒の研究意欲の増進につなげる。</p> <p>カ・MOOCs の授業による英語力の向上</p>	<p>エ・阪大の留学生を活用した English Camp の実施。</p> <p>(2) ア・部活入部率の維持(95%) ・遅刻生徒を2割減少させる。(H25 約2300人)</p> <p>イ・欠席がちな生徒の早期発見と把握及びケアにより長期欠席生徒を半減させる。(H25 約10名)</p> <p>ウ・全員を進級卒業をさせる。</p> <p>(3) ア・TOEFL ITP 受験者数が5名以上になる。 加。(H25は4名) 土曜日等の TOEFL 講座の参加人数が40名以上をめざす。</p> <p>イ・京都大学、大阪大学との新たな連携事業の実施。</p> <p>ウ・新たな内容の海外セミナーを実施する。</p> <p>エ・参加者数の増加、発表数がH25を上回る。(H25は金沢泉丘、藤島、膳所、奈良、天王寺が発表。各校1本と天王寺から報告2本)</p> <p>オ・海外の高校等との交流の機会の増加。(4校以上と交流)</p> <p>カ・TOEFLiBT または TOEFLiBT チャレンジのスコア50点以上の生徒を10人以上育成する。</p>	<p>エ・阪大の留学生を活用した English Camp を実施した。参加生徒は58名、留学生は延べ39名で実施。昨年よりかなり充実したことが実施できた。(◎)</p> <p>(2) ア・部活入部率は統計上100%となった。(◎) ・遅刻生徒を約3割減少させた。(▲665人)(◎)</p> <p>イ・長期欠席の生徒の数は3名減少させたが半減できなかった。(△) (H26 7名)</p> <p>ウ・進級できなかった者1名、卒業できなかった者1名が出た。学校としては家庭との連携、医療との連携、カウンセラーによる支援、さらに適応指導教室の利用も行うなど最大限の支援を行ったが、心の病による長期欠席のため全科目未履修となり残念であった。しかし、年度の途中で進級、卒業が危ぶまれる生徒が複数いたが、最小限にとどめることができた。(△)</p> <p>(3) ア・最終の TOEFL ITP 受験者数は1名。しかし TOEFL iBT challenge は88名が受験。昨年比48名増加。TOEFL iBT は受験料が高く受験者の大幅な伸びは期待しにくいと思われる。(◎) 土曜日の TOEFL 講座の受講者は76名となり目標を上回った。(◎)</p> <p>イ・阪大との新たな連携・・・阪大ツアー2014 実施(◎) ・京大との新たな連携・・・本校おける入試説明会の実施。(◎)</p> <p>ウ・南カリフォルニアツアーにおいてカリフォルニア工科大学での特別授業、UCLA での特別授業の実施(◎)</p> <p>エ・近畿サイエンスデイは京都大学で実施。(農学部総合館 W214 教室で実施。評価は京大教授6名にお願いした。発表校は8校(金沢泉丘、藤島、膳所、奈良、神戸、天王寺、北野、三国丘)昨年比去年に比べてかなり充実したものになった。(◎)</p> <p>オ・海外の高校との交流 韓国の慶南女子高校、オーストラリアのホーランドパーク高校、アメリカのヒングム高校の3校が来校した。 アメリカのラグナビーチ高校と交流を行った。(○) 来校した高校とは英語を使って互いに課題研究の発表を行った。</p> <p>カ・TOEFLiBT・・・73点1人 TOEFL Challenge 80以上 2人 70～79 1人 60～69 11人 50～59 11人 12～49 56人 平均42.3 ※海外セミナー参加者19名中7人が50点以上。最高77点(◎)</p>
<p>3 中堅、若手教員の資質の向上</p>	<p>・若手教員の育成</p> <p>○ 桃陰塾(若手教員の勉強会)→首席を世話役として月1回自主的勉強会(先輩教員の講演会、ワークショップなど)の実施 年間通して、若手教員間での授業研究を促進する。</p> <p>○ 教科指導力の向上をめざして大学と連携し、大学の専門知識をもった教授等から指導を頂く機会を作る。</p>	<p>ア・新採用の教員については相互の授業見学を1人5回以上行う。</p> <p>イ・若手教員(新規採用3年以内)全員が公開研究授業と研究協議会を1回以上実施する。</p>	<p>ア・新採用の教員については相互の授業見学を1人5回実施した。(○)</p> <p>イ・若手教員(新規採用3年以内)全員が公開研究授業と研究協議会を1回実施した。(○)</p>	